

d'une manière adj. と形容詞

谷口 千賀子

0. はじめに

d'une manière adj. の形態は様態を表す *-ment* の副詞 (*adverbes de manière*) の言い換え表現とみなされているが、すべての *-ment* の副詞が *d'une manière adj.* に言い換え可能というわけではない⁽¹⁾。

- 1) On comprend *facilement* /* *d'une manière facile* pourquoi il en est ainsi.
(谷口, 1999: 109)
- 2) Son voile, qui de son chapeau d'homme descendait *obliquement* /* *d'une manière oblique* sur ses hanches. (谷口, 1997: 89)
- 3) La bombe, en principe, ne peut pas exploser *accidentellement* /* *d'une manière accidentelle*. (*ibid.*, 84)

フランス語の *-ment* の副詞は一般に形容詞の女性形から作られる⁽²⁾という形態的特性を持ち、*d'une manière adj.* の形態も形容詞の存在なくしては考えられない。

両形態ともその形成過程に形容詞の存在が認められるわけであるが、これまでの研究では、形容詞と *-ment* の副詞の関係のみが考察の対象となっており、形容詞と *d'une manière adj.* の関係が論じられたことはなかった。

d'une manière adj. の形態の内部では形容詞が名詞 “*manière*” を修飾していると捉えることができる。上の 1)–3) で *d'une manière adj.* の形態が不可能であると判断されるのは、“*manière*” と形容詞との共起関係が影響を与えていると考えることが

できる。では、いったいどのような形容詞が *d'une manière adj.* の形態をとりうるのだろうか。

本稿では、まず *d'une manière adj.* がどのような特性を持つ形態であるかを概観し (1 章)、次に先行研究の中でフランス語の形容詞がどのように捉えられてきたかを見る (2 章)。その後、“*manière*” と形容詞の共起関係の観点から *d'une manière adj.* と形容詞の関係を考察したい (3 章)。

1. *d'une manière adj.* の特性

一般に、*-ment* の副詞の場合、文中の位置によって解釈の異なることがある。たとえば、Molinier (1985) によると、4) の *sottement* は *adverbe de phrase orienté vers le sujet* と解釈され、5) では *adverbe de manière orienté vers le sujet* と解釈されるという (p.322)。

4) *Sottement*, Paul a répondu à la question de Marie.

5) Paul a répondu *sottement* à la question de Marie.

また、たとえ位置の変わることがなくともその解釈が曖昧になることがある。Molinier (1985) は、以下の例の *sottement* は *adverbe de phrase (orienté vers le sujet)* とも *adverbe de manière (orienté vers le sujet)* とも解釈できると指摘している (pp.324-325)。

6) Paul a *sottement* répondu à la question de Marie.

これに対して、*d'une manière adj.* は、文中のどの位置で用いても *adverbe de manière* と解釈され⁹⁾、文中での位置による解釈の違いは見られない。

7) Paul a répondu *d'une manière sotte* à la question de Marie.

8) *D'une manière sotte*, Paul a répondu à la question de Marie. (Molinier, 1985 : 326)

Ducrot (1980) は、個々の副詞(句)の機能を以下に示すように 3 つに分けて捉えて

いる (pp.35-36).

1. 発話の構成素 (*un constituant de l'énoncé*) にかかるもの

Seul Pierre parlait franchement.

2. 発話全体 (*l'ensemble de l'énoncé*) にかかるもの

Heureusement, seul Pierre parlait.

3. 発話行為 (*l'énonciation*) にかかるもの

Franchement, seul Pierre parlait.

d'une manière adj. は1の機能を有し、発話の構成素の中でも常に動詞によって表される事行にかかるものである。*-ment*の副詞と *d'une manière adj.* の言い換えが可能になるのは、*-ment*の副詞がやはり1の機能を有しているように見えるときであるが、その際にも言い換えが不可能な場合が存在する。

- 9) *Salez légèrement.* (Choi-Jonin, 1999)

- 10) **Salez d'une manière légère.*

9) は *salez un peu* とパラフレーズできるが、10) では同様の解釈は不可能である。あえて解釈するならば、たとえば「羽のようにふわふわと踊りながら塩を振る」とでもなるだろう。つまり、*d'une manière légère* は《*saler*》という行為が遂行される際の事行主体の態度・姿勢が話者によって具体的に捉えられることを表していることになる。このことから、次のような場合にも *-ment*の副詞と *d'une manière adj.* では想起される内容に違いのあることが予想され、*-ment*の副詞と *d'une manière adj.* は必ずしも等価ではないと考えられる。

- 11) *Il se déplace lentement.* (Choi-Jonin, 1999)

- 12) *Il se déplace d'une manière lente.*

両文とも、結果的に「移動するのに時間がかかる」ことを示しているのだが、インフォーマントによると、11) では *lentement* が《*il - se déplacer*》という事態自体の様態を直接示しているのに対して、12) の *d'une manière lente* は、10) と同様に、たとえば「動作がゆっくりしている」や「他のものに気を取られてきょろきょろして

いる」など、《*se déplacer*》する際の事行主体の態度や姿勢を話者が具体的に捉えているとみなすことができ、結果として「移動に時間がかかる」という解釈につながるという。つまり、*d'une manière adj.* は話者が事行に付随する事行主体の態度や姿勢といったものに言及しながら間接的に事行に対する様態付与を行うのである。

また我々の調査によると、*d'une manière adj.* を用いる場合、事行は *dynamique* なものと解釈されやすいようである。たとえば次の例を見てみよう。

13) Max aime Léa *ardemment*.

13') Max aime Léa *d'une manière ardente*.

一般に特別な文脈などが与えられていないとき、13) での《*aimer*》は感情という *non-dynamique* な事行と解釈され、13') での《*aimer*》は肉体的行為を表す *dynamique* な事行と解釈される。同様に、次の例においても、

14) Max aime la musique *d'une manière passionnée*. (谷口, 1999 : 108)

15) Les chrétiens aiment Dieu *d'une manière ardente*. (*ibid.*)

d'une manière adj. を用いると「1日中音楽を聴いている」「毎日楽器を弾いている」あるいは「一日中祈っている」「毎日教会に通っている」などといった、事行主体の態度や姿勢を具体的に想起させることになり、《*aimer*》は《*musique*》や《*Dieu*》に没頭する *dynamique* な事行と解釈されるのである。

これまでに取り上げた例では事行主体が有生であるものがほとんどであったために、*d'une manière adj.* は「事行主体の態度や姿勢を具体的に想起させる」という解釈が可能であった。しかし、*d'une manière adj.* を含む文の主語は常に有生物とは限らない。無生物主語の場合には、擬人化して捉えられる場合を除いて、当然のことながら「事行主体の態度や姿勢」という解釈は不可能である。たとえば、インフォーマントによると次の例の場合、

16) Nous avons pu faire remblayer la colline où le petit cimetière glissait *dangereusement*. (Fleutiaux, in Guimier, 1996 : 53)

16') Nous avons pu faire remblayer la colline où le petit cimetière glissait

d'une manière dangereuse.

16) よりも 16) のほうが容認度は高いようであるが、16) は *d'une manière* “qui me semblait” *dangereuse* と解釈すれば容認度が上がり、話者が事行《glisser》の生起に付随して現れている《dangereux》と感じられる様相の存在をより具体的に捉えていることが想起されるようである。

事行主体が有生物のときには、事行を遂行するのともそれにとまなう具体的な態度や姿勢を示すのも同一人物であることから、*d'une manière adj.* が「事行主体の態度や姿勢を具体的に想起させる」という解釈が可能となるだけであり、*d'une manière adj.* の形態は、事行主体が有生物であっても無生物であっても、ある事行の展開に付随して現れるなんらかの様相の存在を話者が捉えていることを表す手段であると言える。

2. 先行研究における形容詞の捉え方

Noailly (1999) によれば、形容詞とは、修飾する名詞と性・数の一致を行うもののことである。つまり、「いわゆる形容詞」(*petit, grand, rouge, bleu* など)と限定辞(冠詞、数詞、指示形容詞、所有形容詞、不定形容詞、疑問形容詞など)が含まれる。ただし、限定辞が名詞の現動化に必要な不可欠な要素であるのにたいして、「いわゆる形容詞」は名詞の現動化にとって任意の存在であるという違いがある (Noailly, 1999 : 9)。

形容詞の形態的な特徴は、修飾する名詞と性・数の一致を行うことであるが、これには例外もあり、必ずしも形容詞の絶対的な特徴ではない⁴⁾。また、*-el (industriel)*, *-ique (sympatique)*, *-if (actif)* などの接尾辞や、*anti- (antisocial)*, *super- (superfin)*, *in- (incertain)* などの接頭辞の付く語が多いことも形容詞の形態的特徴の一つであるが、同様の語形を持つ語が他の品詞にも見られたり (*l'hôtel, la musique, le tarif, l'antithèse, le supermarché, l'indifférence*)、接尾辞や接頭辞のない形容詞 (*grand, vert, jeune, mince* など) も多数あることから、このこともまた形容詞の決定的な形

態的特徴とはいえない。その他にも、動詞の過去分詞形や現在分詞形が形容詞的に用いられる場合がある。

形容詞の統辞的・機能的特性から見ると、大きく **adjectifs qualificatifs (AQ)** と **adjectifs relationnels⁶⁾ (AR)** に分けられ、さらに AQ は名詞の *épithète* となる場合に後置されるもの (**adjectifs restrictifs**) と前置されるもの (**adjectifs descriptifs**) に下位区分される。

また、形容詞を意味の点から捉え、**adjectifs de couleur**, **adjectifs évaluatifs**, **adjectifs appréciatifs** などと区別することがある。

形容詞と副詞・副詞的表現との関係から見た場合、上で述べた形容詞の特徴はいずれも、どのような形容詞が *d'une manière adj.* の形態を取りうるのかを説明するのに不十分である。性・数の対立のあることはほぼすべての形容詞に当てはまる条件であるし、接尾辞や接頭辞が付く・付かないということも形容詞の本質的な特徴とは言えない。また、AQ なのか AR なのか、**adjectifs restrictifs** なのか **adjectifs descriptifs** なのかという形容詞の統辞的・機能的な特性によって分類するとしても、次の例のように *d'une manière adj.* の内部で形容詞が前置される例も見られ、

17) Depuis trois siècles, l'homme a saisi le monde *d'une grande manière*.

(Michelet, *Journal*, T.2, 1860, in Discotext)

これもまた形容詞と *d'une manière adj.* との関係を見るには不十分な分類である。さらに、形容詞の意味による分類によっても、形容詞の意味を網羅的に捉えない限り形容詞と *d'une manière adj.* の関係を論じることはできないであろう。

そのような考えから、谷口 (2001) では形容詞の新たな捉え方の枠組を提示した。形容詞は名詞または名詞的なものの指示対象 (N) を修飾するのがその本質的な働きである。しかし、たとえば *une grande maison* という場合と *une maison confortable* という場合とでは、*grand* が *maison* の外見的な性質を表しうるのに対して、*confortable* は *maison* の内的性質を表していると判断することができ、同じ *maison* を修飾しているにもかかわらず形容詞のタイプによって *maison* のいかなる側面を描

写しようとしているのが異なることになる。また、同じ *une grande maison* という場合にも *grand* は必ずしも *maison* の外見のみを描写するわけではなく、文脈によっては「立派な」「一流の」といった内的性質を表す場合もある。

このことから、形容詞が N のどのような側面にかかわって機能しているかを考える必要があるだろう。N について語る場合、発話者はさまざまな側面から N を描写することができる。この発話者の視点の位置（N のどのような側面を捉えているか）が形容詞に反映されと考え、谷口（2001）は発話者による N の捉え方の可能性を示した。それが以下のものである⁶⁾。

1. N の存在自体を問う視点

生起の蓋然性 : *possible, certain, probable, vraisemblable*

真偽 : *vrai, faux*

2. N の生起のし方を問う視点

現れかた : *spontané, contingent, accidentel*

継続 : *durable, continu, intermittent*

継続期間 : *permanent, temporaire, long, court*

最終的狀態 : *mortel, inutile, vain*

頻度 : *fréquent, répétitif*

手段・方法 : *didactique, systématique, algébrique*

3. N の位置付けを示そうとする視点

時間的位置付け : *ancien, actuel, futur*

空間的位置付け : *droit, gauche, céleste*

枠組（分野・領域） : *linguistique, aborigène, ethnique*

社会的所属 : *japonais, étudiant, catholique*

4. 他の N とのかかわりを示そうとする視点

同種または異種の N とのかかわり : *pareil, autre, différent, premier*

異種の N とのかかわり : *digne, dénué, social, cantonal*

5. N の外面を示そうとする視点

五感で捉えるもの : *visible, assourdissant, puant, acide, mou, chaud, rouge, grand, petit, haut, bas, épais, long, rond, carré*

美醜 : *beau, laid, joli*

話者の印象 : *triste, heureux, gai, anxieux, joyeux, vif, affecté*

6. N の内面を示そうとする視点

心的状態 : *triste, heureux, gai, anxieux, joyeux*

性質・性格 : *liquide, gluant, timide, sympathique, capable, compétent*

話者の主観的評価 : *bon, bizarre, aimable, confortable*

7. N の数・量を示そうとする視点 : *incalculable, nombreux*

8. N の程度を示そうとする視点 : *énorme, fini, infini*

形容詞はあくまでも N との関係において観察されなければならない。形容詞のみを対象として分類するのではなく、形容詞が N のどのような側面を捉えようとしているのかによってその機能領域を見るわけである。

ただし、あらゆる N がこれらの側面のすべてにおいて捉えられるわけではないことや、ある決まった性質を持つ名詞としか共起しない形容詞 (*scialytique, antidérapant, convexe, aboulique, acariâtre* など) があることは考慮しなければならない。

3. *d'une manière adj.* と形容詞

d'une manière adj. は文中で動詞によって表される事行を修飾する *adverbe de manière* として機能するわけであるが、この形態は形容詞が“*manière*”という語を修飾し、さらに前置詞“*de*”を介して動詞と結びつく構造になっている。つまり *d'une manière adj.* の形態内部に存在する形容詞は、2 章で取り上げた谷口 (2001) の形容

詞の捉え方で言うならば、“manière”という語の指示対象を話者がどのような側面から捉えているかということを示すものということになる。

まず“manière”がどのような性質を持つ名詞であるかを見てみたい。1章でも述べたように、*d'une manière adj.*の形態は話者によって認知される事行のある様相の存在を示す働きをしている。このことから*d'une manière adj.*内の“manière”は話者によって具体的・概念的に捉えられ、事行の展開にともなって現れるなんらかの要素を指示対象としていると考えることができるだろう。

谷口(2001)の形容詞の捉え方とこの“manière”の指示対象の関係から見た場合、話者は以下の側面から“manière”を捉えることができないと考えられる。

1. Nの生起自体を問う視点

事行の生起する時点ですでに“manière”の存在は前提となっているため。

2. Nの生起のし方を問う視点のうち、現れかた／最終的狀態／頻度

3. Nの位置付けを示そうとする視点

“manière”の発生は事行の発生と同時に・同位置であるので、事行と切り離してあらためて“manière”の位置付けを行うことはできないため。

5. Nの外面を示そうとする視点のうち、五感で捉えるもの／美醜

6. Nの内面を示そうとする視点のうち、性質・性格

事行遂行の過程を示す“manière”の指示対象は文脈や事行の内容によって変わり、固有の外観、固有の性質を持つものとは限らないため。

6. Nの内面を示そうとする視点のうち、心的状態

有生物名詞ではないため。

7. Nの数・量を示そうとする視点

*d'une manière adj.*の形態においては“une”という数量がすでに示されているため。

よって、話者が捉えることのできる側面は、次のとおりである。

2. Nの生起のし方を問う視点のうち、継続／継続期間／手段・方法

18) L'objectif n'est plus d'offrir du travail à tous, mais de partager *d'une manière durable* le chômage. (谷口, 1997: 87)

19) Il m'expliqua ses plans *d'une manière* un peu *longue*. (Chateaubriand, *Mémoire d'Outre-Tombe*, T.3, in Discotext)

20) Ferdinand racontait bien, *d'une manière* purement *didactique*, nous égarant sur les chemins du tantrisme. (Hanska, *Les amants foudroyés*, 1984, in Frantext)

4. 他のNとのかかわりを示そうとする視点

21) Elle lui reposa la question *d'une autre manière*, mais il resta muet. (Sabatier, *Les allumettes suédoises*, 1969, in Frantext)

5. Nの外面を示そうとする視点のうち、話者の印象

22) Paul a lu l'annonce *d'une manière attentive*.

6. Nの内面を示そうとする視点のうち、話者の主観的評価

23) La jeune mère regardait *d'une manière anxieuse* sa petite fille jouer près de l'eau. (谷口, 1997: 90)

8. Nの程度を示そうとする視点

24) Vous ne l'(la vie) avez pas comme Dieu, qui l'a *d'une manière infinie* ; vous ne l'avez que *d'une manière finie*. (Laroux, *De l'Humanité, de son principe et de son avenir*, in Discotext)

4. まとめ

d'une manière adj. の形態には形容詞の存在が必要不可欠である。しかしすべての

形容詞がこれらの副詞的形態を形成するわけではない。本稿ではこれまで観察されることのなかった形容詞と *d'une manière adj.* の関係に着目した。

形容詞はこれまでその統辞的・機能的・形態的・意味的特徴から捉えられるのみであったが、形容詞は名詞または名詞的なものの指示対象を修飾するという本質から、形容詞がその指示対象のどのような側面を描写するのに機能しているかという点に焦点を当てた谷口（2001）の形容詞の捉え方にもとづいて、形容詞と *d'une manière adj.* の形態の関係を考察した。

d'une manière adj. の形態は、形容詞が名詞“*manière*”を修飾し、それがさらに前置詞“*de*”を介して動詞によって表される事行と結びつく構造になっている。発話者が名詞（的なもの）によって示される指示対象（N）を描写しようとするとき、さまざまな側面からそのNを捉えることができるが、*d'une manière adj.* 内の名詞“*manière*”はその指示対象の性質から、継続性、他の“*manière*”との関係性、外面から受ける話者の印象、手順、話者の主観的評価、程度という側面で捉えられていることを示すようなタイプの形容詞としか共起しないことがわかった。

“*manière*”は *d'une manière adj.* の構成素としてだけではなく、名詞本来の用法も存在する。本来の名詞としての“*manière*”と形容詞の共起関係と、*d'une manière adj.* の構成素としての“*manière*”と形容詞の共起関係には違いがあるのか、また、冠詞をとまわらない *de manière adj.* の形態と *d'une manière adj.* の形態に現れる形容詞に違いはあるのかなど、今後の課題としたい。

注

- (1) Nique (1974) は、すべての形容詞が *d'une manière adj.* の形態を取りうると述べている (p.44) が、1)–3) の例を見てもわかるとおり、我々の観察によればこの指摘は誤りである。
- (2) *nuitamment, bougrement, diablement, vachement* など、名詞から派生する *-ment* の副詞も存在する (cf. Moignet (1963: 181))。

- (3) ただし, d'une manière générale と d'une certaine manière を除く.
- (4) 性の対立のないもの (marron, jeune, possible など) や, 数の対立のないもの (japonais, gros, heureux など), 性・数ともに対立のないもの (bleu-vert のような複合形容詞) がある.
- (5) 先行研究の中では pseudo-adjectifs と呼ばれている (cf. Noailly (1999), Goes (1999)).
- (6) 谷口 (2001) に一部変更を加えている.
- (7) Moignet (1963), p.185 参照.

参考文献

- CHOI-JONIN, I. (1999 予定・未刊): "*Consommez avec modération* vs *consommez modérément*: il y a manière et manière", *SCOLIA*, 12, Université Marc Bloch (Strasbourg II).
- DUCROT, O. (1980): "Analyses pragmatiques", *Communications*, 32, pp.11-60.
- GOES, J. (1999): *L'adjectif Entre nom et verbe*, Champs linguistique, Paris-Bruxelles, Duculot.
- GUIMIER, C. (1996): *Les adverbes du français: le cas des adverbes en -ment*, Collection l'essentiel français, Paris, Ophrys.
- MOIGNET, G. (1963): "L'incidence de l'adverbe et l'adverbialisation des adjectifs", *Travaux de Linguistique et de Littérature*, 1, pp.175-194.
- MOLINIER, C. (1985): "Remarques sur une classe d'adverbes en *-ment* orientés vers le sujet et leurs adjectifs sources", *Linguisticae Investigationes*, IX, pp.321-341.
- NIQUE, Ch. (1974): *Initiation méthodique à la grammaire générative*, Paris, Librairie Armand Colin.
- NOAILLY, M. (1999): *L'adjectif en français*, Collection l'essentiel français, Paris, Ophrys.
- 谷口千賀子 (1997): 「*d'une manière adj.* の使用上の制約について」, 『年報・フランス研究』, 31, 関西学院大学フランス学会, pp.81-92.

谷口千賀子 (1999): 「*-ment* の副詞と *d'une manière adj.* の機能領域」, 『年報・フランス研究』, 33, 関西学院大学フランス学会, pp.99-111.

谷口千賀子 (2001 予定): 「フランス語形容詞に関する一考察」, 『人文論究』, 50-4, 関西学院大学人文学会.

(文学研究科研究員)